



品質は語る……

白松が モナカ本舗



端午の節句に

手づくり「かしわ餅」



数量
限定

あずき餡・みそ餡・よもぎ1個170円/栗かしわ1個185円



制御器（コントローラー）

あの本物の
市電に乗れる！

仙台市電保存館



1号車（モハ1型）

仙台市電保存館は、大正末期から半世紀にわたり市民の足として親しまれ、仙台の街を走り続けてきた市電の姿を未来に伝えるための施設として、平成3年4月25日に地下鉄富沢駅両基地内に開館しました。同館では、創業当時の1号車など市電車両や関係資料の展示、ビデオ上映など行っておりますのでご覧ください。



仙台市電保存館

開館時間 午前10時～午後4時
休館日・月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
・祝日の翌日（土曜日・日曜日が祝日に当たる場合は開館）
・12月28日から翌年1月3日
※冬期間（12月1日から翌年3月19日）は
土・日曜日、祝日のみ開館 ●入館料 無料
所在地 仙台市太白区富沢字中河原2-1
地下鉄富沢駅南基地内
★地下鉄富沢駅下車徒歩約15分
お問い合わせ 電話：022（244）1267

参考資料「仙台市電—その50年」（仙台市交通局発行）
取材協力 仙台市電保存館 資料提供 国分和夫さん

昭和の仙台を走り続けた市電のお別れセレモニー



昭和51年
3月31日市電廃止

*写真は「長町駅前でのお別れ式」（昭和51年3月）



大正15（1926）年11月25日、待望の木造四輪単車の路面電車が大打一丁目～仙台駅前～荒町間の3.3kmで営業を開始。昭和3年（1928）年に市内中心部の循環線と芭蕉の辻線が完成し、その後、長町、八幡町、北仙台、原町の各線が延長され、総営業キロ16kmにも及んだ。昭和40年代のモータリゼーションの到来により、道路は混雑し、市電の利用者は年々減少。昭和48（1973）年、市電廃止が決定。昭和51（1976）年3月31日。時代の流れと交通環境の変化には勝てず、その幕を閉じた。

*市電廃止まで活躍した（415号車）



「50年間、市民の足として奉仕した功績を称える。君の姿はいつまでも市民の心に残るだろう」と、まるで人を労うような別れの言葉を述べたのは、当時の仙台市長島野武さん。仙台市の広報誌は「さよなら市電」の特集を組みました。そこにはこんな一文が……。

「市電は通勤や通学に、買物に、子どもからお年寄りまで安心して乗れる“市民の足”だった。同時に市電は“都会のシンボル”でもあった。市電は、子どもたちの大好きな乗物だった。車窓から移り変わるまち並みに心を踊らせ、巧みな運転に感嘆する。そうした思い出をみんなが抱いていることだろう」。

それから11年後の昭和62年、仙台に登場したのが東北初の地下鉄です。地上から地下へ、スローから高速へと変わっても、路面電車を懐かしむ声は今も絶えません。思い出の車両は今も「仙台市電保存館」で出会えます。読者の皆様から多くの反響をいただいたこのシリーズもこれをもちまして、終わりといたします。

年号が昭和に変わる直前の大正15年11月から仙台のまちを走り、最盛期は1日10万人を運んだ路面電車も、クルマに押されて昭和51年、退場することになりました。

廃止が決まると、名残を惜しむ市民の声があふれます。記念切符が発行され、連日、車両を美しく飾った花電車が走りました。「あなたの街の市電と風景・生活写真を募集！」「小学生対象に市電を描いた図画作品募集！」「サヨナラ市電クイズに答えよう」等々、まちは市電で大盛り上がり。

そして最終日の3月31日、お別れセレモニーが行われた仙台市役所前は、市民で埋め尽くされました。